

自蹊庵便り

令和元年 霜月

NO 140

ドイツ紀行 I

一ヶ月のドイツ旅を終えて帰ってまいりました。無事と云えば無事、一難去ってまた一難の感、無きにしもあらず乍ら、まずは一日一日感謝の旅にございました。

ひとまずお招き頂いたフランクフルト周辺を拠点とするも、観光地にはほぼ縁なく荘厳なバロック建築もロマンチック街道も、ミュンヘンの宮廷建築も見ることなく、ひたすら台地の丘陵の美しさに惹かれての東奔西走にございました。

足の赴くままの旅というよりは、何かしらずっと以前より用意されていた場所に誘いざなわれていると申しましょるか、導かれてのこととございませうか？行く先々神祕に満ちておりました。なかでも最初に訪れたシュタインフルトのレーブ家の庭の風情、手を入れ過ぎることなく、自然にまか

せながら共存している植物達のひそひそ咄が聴こえてきそうな、優しい庭に出逢い、当主のクリストフさんにもお目にかかり、五年ほど前になくなられたおばあさまが、日々語りかけながら育てていた庭と伺い、人間の手を加え過ぎない共存の優しい波動は、そう…、語りかけて出来上がった庭だと納得したことでした。

そして更にもうこれには感動したというより必然のお導きであったと胸を打たれたのは、三〇〇年余続いていると云うその庭にある建物の壁に（壁面の中央のベンガラ色の中に黒の鶴の絵）鶴が一羽片足に石を掴み、片足立ちしている絵に出逢い、しばし釘付けになり、見ておりました。

クリストフさんにお訪ねしたらレーブ家の家紋であるとのこと。片足に石を掴んでいる意味をお尋ねすると、石を掴んでいる

足は少しでも油断すると、まさにストーンと下に落ちてしまおうと微笑み乍ら咄してくださった。代々子孫の繁栄を願った知恵の詰まった家紋のように思え、同じ家紋の素敵な指輪をはめていらしたのを見せて頂き、何とも云えぬ感動を覚えました。

私も許されることなら着物の紋に同じ絵を縫いたいほどの思いよぎったものです。油断するとしっかり掴んでいた爪先の力がゆるみ、うっかり石を落としてしまう。

只今七十六歳、後四年で八十歳、車に荷を積み積み移動する我が身なれば、この紋章は今の私に最も必要な暗示のように思えてなりませんでした。

フランクフルトに着き、まずはレーブ家を訪れ、出逢ったのが、この片足の絵にございました。

忘れるな！見落とすな！粗相するな！そ

の中の一つ油断があっても良い茶事にならず、裏方のスタッフをも悲しませてしまうことになります。生涯忘れることのない家紋です。

―石抱く片足の絵の前に立ちて

わが身と思う鶴の片足― 鶴女

そのレーブ家のあるシュタインフルトという街は、昔から三千人ほどの人口で今も変わらないという、何とも不思議な街です。

茶事のために合流したスタッフの宿も、その近くに用意されていて、二〇〇年を越える重厚な三階建ての建物で、各部屋とも歴史を感じさせる贅沢な居心地にございました。

フランス国境近く、スイス国境近くと景色に誘われつつも、途中、茶事にお招き頂いたツビニゲンベルクのT女史宅に三日間、講演一日、茶事二日間を御準備くださり、その行き届いた当主ぶりに、亭主を勤めさせて頂いた私も脱帽です。お集まりのお客様も御主人様はドイツ人、縁あってドイツの地に骨を埋める覚悟の日本女性の方々、

御満足頂ける一服であったらどうか？！利休さんの言葉に「心至らぬは修練も至らぬ」という、はっきりした言葉を残してくれています。

皆様の満ちあふれた善意と御好意に甘えての一服であってはならないと、覚悟のいるドイツ茶事行脚にございました。

茶事の続いた翌日なので、余りこった事も出来ない中、昼の点心十二名、夜はクリフトフさんとの一客一亭のお約束、スタッフの働きとレーブ家の庭の自然の恵みが秋の照葉に助けられての残り福点心、さすがに主菓子作りは間に合わないかと…干菓子のつもりでいた処、スタッフの機転でおしるこをお出しすることが出来、肌寒い日であったので皆様にとって、おしるこは懐かしい御馳走であったことでしょう。

茶事は誠に一人では成り立たず、裏方スタッフの力量で決まるもの…と改めて実感させられた茶事にございました。仕込み日も入れ延べ五日間の茶事を無事に終え、また一人旅の茶事行脚、後半はスイスとの国

境近くに向けて湖を訪ねてみたいと思います。

大地はまさに豊かな稔りのときを迎えていて、リンゲンバッツハでは一面のぶどう畑、

収穫期に出会い、ポーランドやウクライナから働きに来たという若い娘さん達と話しをする機会を得て、後日一服を点てる約束をしていたのでそちらに向かいます。

美しい丘陵の稜線を眺めながら思いましたことは、このような平和な豊かな恵みをもたらす大地も、日本と同じように敗戦国としての歴史を背負ったの、今の目の当たりの美しさであること、事実、人々の営みの尊さが胸に染みます。

この度は台風の最中に日本を発ち、また、台風の中を帰国しました。その間、千葉は地震もあったよし、ドイツのような恵まれた大地からみたら、なぜ日本のような地震や津波、台風に毎年何度も見舞われる島に住んでいるのか不思議に思うでしょうね。この度の台風の爪痕の被害に胸が潰れる思いです。それでも日本はこの山河の懐に

抱かれて自然と共に生きてきた民族ですものね。災害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。寒さに向かいます折柄、お体をおいといくださいますように。くれぐれも御自愛のほどお祈り申し上げます。私もドイツに旅立つ折、皆様から台風見舞いのメール、お見舞いを頂きながら、返信も出来ず失礼いたしました。紙面にてお詫びを申し上げます。

次回、ドイツ紀行パートⅡは、わが人生最も落ち込んだみじめな咄になりそうです。そこに真実あり。お楽しみに！

教室の御案内

利休会記を読み解く会(目黒・羅漢寺)

十一月二十三日 (第四土曜)

十二月二十八日 (第四土曜)

いずれも

午前十時から正午 昼食後解散

会費 五千円

東金教室

霜月の茶事(口切)

十一月 十日 (第二日曜) 正午

十一月十一日 (第二月曜) 正午

十一月十二日 (第二火曜) 正午

席入り 正午〜午後四時終了

点前担当者、水屋実習者 午前九時

八時半に大網駅にお迎えに上がっております。

会費 一万三千元 (レギュラー者)

一万五千元 (単発参加者)

※今月は実壺料三千元を含みます。

※季節柄寒くなり、日も早く暮れます。

四時には終わるよう努力をいたします。

すが、途中でも東京方面の皆様

に十六時三十七分久里浜行きの快速に

乗って頂けるように、十六時十分

には大網駅にお送りいたします。

(平日・休日共に)

師走の茶事(夜咄)

十二月八日 (第二日曜) 正午

十二月九日 (第二月曜) 正午

十二月十日 (第二火曜) 正午

席入り 午後五時

〜午後八時半終了厳守

点前担当者、水屋実習者

午前十一時半

十一時に大網駅にお迎え

会費 一万二千元 (レギュラー者)

一万四千元 (単発参加者)

※今月は小灯料二千元を含みます。

※お帰りは、東京方面の皆様には

九時十九分久里浜行きの快速に乗っ

て頂けるように、拙庵を八時五十分

には出発し、大網駅にお送りいたし

ます。(平日・休日共に)

○宿泊希望の方は、ゲストハウス

二千元。予めご予約ください。

○連日研修者は、翌日は五千円参加で

す。(翌日分の実壺料、小灯料なし)

湯河原教室 口悦会

都合により十一月のみずれます

十一月十六日(第三土曜)

十一月十七日(第三日曜)

旬の食材を楽しむ会

十一月十八日(第三月曜)

利休会記を読み解く会

十二月十五日(第三日曜)

旬の食材を楽しむ会

十二月十六日(第三月曜)

利休会記を読み解く会

会費 一日五千円

二日間 八千円

申込は、事務局 服部 宏子様

神奈川県足柄下郡

湯河原町宮下75713

046512015932

十一月の京都教室の詳細

会場：大徳寺瑞峯院内余慶庵

十一月二日(土) 準備

午前九時～午後四時(午前七時、

搬入手伝いは都合の付くスタッフ)

十一月三日(日) 口切茶事実習

準備 九時

席入 十一時半

十一月四日(月) 一日と同じ

茶事教室会費

二万三千元(レギュラー)

二万六千元(年三回以上参加)

二万八千元(単発参加者)

※実壺料三千元を含みます。

※連日参加者の会費について、

一日分は正規の会費、

他の日は一日五千円の研修費

となります。

十一月五日(火) 霜月点心作り

(午前九時～正午) 優食会

都合のつく方は

(午後二時～午後五時) 片付、掃除

優食会会費 連日参加者 五千元

単発者 一万円

宿泊場所

コンドミニウムイルヤ

一泊 五千元(朝・夕食込み)

きらら山荘(関西セミナーハウス)

シングル一泊六千五百円

※利休会記を読み解く会は、

宿にて夕食後午後七時～午後九時

二日～四日までの四日間

会費 茶事参加者無料

読み解く会のみ参加者

一日 二千元

二日間 三千元

三日間 四千元